



# 2017年度 天文資料

平成29年度 第1号 (4月号)

平成29年 3月24日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



## <月初めは水星が見ごろ、下旬は4月こと座流星群が極大、明けの明星金星が最大光度>

2月から3月初めにかけて、明るい輝きを見せていた金星が、3月23日には、地球と太陽の間に入り込む「内合」となり、しばらくは見えなくなります。月初めは、夕方西の空に水星が見ごろ、太陽の近くにあるためになかなか見る機会に恵まれない水星を観察するチャンスです。また、4月1日には、おうし座の1等星アルデバランが、細い月に隠されるアルデバランの食が起こります。そして、下旬は、「4月こと座流星群」が極大に。また、月初めには、見えなかった金星が、半ばあたりから朝東の空に見え始め、下旬には、最大光度(-4.5等級)となります。今回は、水星、月によるアルデバランの食、4月こと座流星群を取り上げます。

## <4月1日水星が東方最大離角、月によるアルデバランの食>

太陽系で最も内側の軌道回る水星は、太陽の近くにあるため、なかなか観察しにくい惑星です。あのコペルニクスが死の間際に、「私の生涯で最も悔いることは、水星を見なかったことだ。」と言ったというエピソードがあるくらい、見えにくい惑星なのです。

地球から見る惑星が、太陽の東側に最も大きく離れるのが「東方最大離角」

西側に最も大きく離れるのが「西方最大離角」です。東方最大離角のときは、

夕方西の空で、西方最大離角のときは明け方東の空で見やすくなります。4

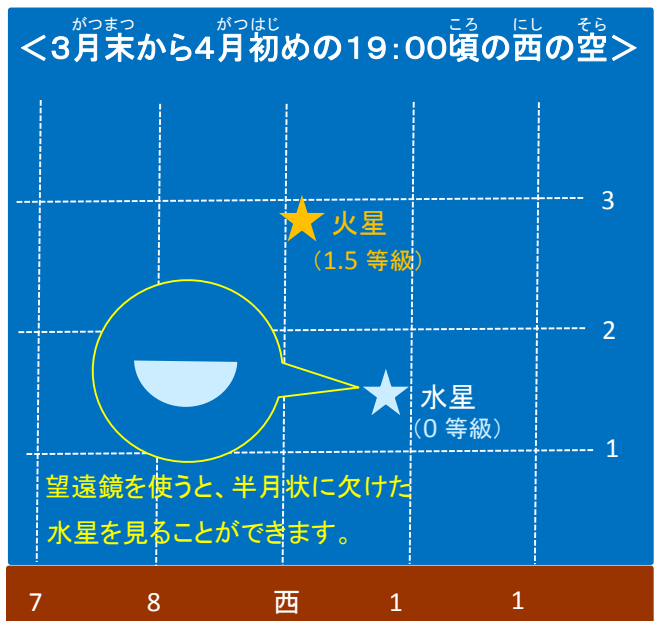
月1日は水星が東方最大離角となります。3月の終わりから4月の初めにかけて、

水星が夕方西の空で見えやすくなります。明るさは、0等級ですが、日没後の空は明るいので、肉眼ではわかりにくいかもしれません。西の空の開けた所で、双眼鏡を使って水星を探してみましょう。

また、4月1日の宵には、おうし座の1等星アルデバランが、月齢4.3の細い

月に隠されるアルデバランの食が起こります。18:33頃アルデバランが月の欠けた部分に入り込み、姿を消します。月の明るい部分から再び姿を現すのが19:43頃、約70分間の食です。双眼鏡を使えば、地球照※1に輝く月の欠けた部分に入り込むアルデバランの様子をじっくり見ることができるでしょう。

※1 太陽の光が地球に反射し、その光が月の欠けた部分に当たって、欠けた部分がうすらと光る現象。



## <4月22日～23日、4月こと座流星群が見ごろ>

流星群は、ある1点を中心に放射状に出現しますが、この中心点のことを「放射点(または輻射点)」といいます。その放射点のある星座またはその近くの星座を頭につけて〇〇座流星群と呼んでいます。こと座に放射点を持つ流星群はいくつかありますが、4月の流星群は特に出現数が多く、他のこと座流星群と区別するために、正式には「4月こと座流星群」と呼ばれます。

今年の極大は、4月22日の21時頃、この時間帯には放射点は北東の低空にあります。夜半過ぎには、放射点が昇ってきますので、22日宵から23日の夜半にかけてが見ごろ、細い月が昇ってくるのが3:30過ぎですので、月明かりは全く気にしないでいい

でしょう。この流星群は、明るい火球や痕を残すものも多いので、写真撮影に挑戦してみるのも楽しいでしょう。

なお、この流星群を起こすもとになる母天体は、「C/1861 G1」という、1861年にA. E. Thatcherが発見した彗星です。

